

# PROFILE

## 佐藤元彦

愛知医科大学医学部生理学講座



平成 24 年 3 月 1 日付で愛知医科大学医学部生理学（旧第二生理学）教授を拝命しました。愛知医科大学は 1972 年創立の名古屋市東部近郊の長久手市にある医系大学です。

生理学講座は、本年 4 月に旧第一生理学と旧第二生理学が統合され、大講座として運営されています。私の担当する旧第二生理学講座は初代小川徳雄教授が創設され、第二代目菅屋潤壹教授が発展された教室で、私は三代目ということになります。小川教授、菅屋教授は環境生理がご専門で、暑熱順応、発汗機構で独創的な研究を積み重ねて来られました。私はこの礎の上に、専門とする情報伝達機構の解析という研究分野を立ち上げているところです。おかげさまで多くの方のご協力を頂き、本年度中に新研究室がオープンする予定となりました。教室員は私以下、特任教授 1 名、講師 2 名、助教 1 名、助手 1 名の 6 人で、非常勤の先生にもご協力を頂きながら講義と実習をこなしております (<http://www.aichi-med-u.ac.jp/physio2/index.html>)。

私は旭川医科大学を卒業し、循環器内科学をベースに医学研究を開始しました。平滑筋の増殖に関する研究を行った後、米国サウスカロライナ州立医科大学医学部に留学、細胞内情報伝達機構の研究を進めました。その後、旭川医科大学に戻りましたが、米国ルイジアナ州立大学医学部より招聘をいただき、ニューオーリンズに移り研究活動を続けました。2006 年からは横浜市立大学の石川義弘先生の教室に参加させていただき、6 年間自身の研究を進めさせていただきました。

さて、私は疾病と情報伝達異常をテーマに研究して参りましたが、近年は特に、新たな三量体 G 蛋白シグナルと生理調節機能の関係について研究

しております。三量体 G 蛋白は受容体刺激を効果器に伝えるものとして発見されましたが、その後、受容体とは別に三量体 G 蛋白を直接活性化する蛋白 (G 蛋白活性制御因子) が存在することが明らかとなり、その生理的意義が注目されています。私はこの領域の黎明期に研究をスタートし、以後一貫して研究を続けております。最近、疾患の発症・進展を左右する G 蛋白活性制御因子の同定と機能解析に力を注いでおります。先の研究では、狭心症モデルに発現する G 蛋白活性制御因子 (Activator of G-protein Signaling 8, AGS8) と、心肥大に関与する G 蛋白活性制御因子 (Activator of G-protein Signaling 11-13, AGS11-13) を同定することができました。現在はその生理的意義の解明、さらに他の病態下で発現する G 蛋白活性制御因子の同定を行っております。

情報制御蛋白の同定が生理調節機構の解明につながり、ひいては生理学の発展に貢献できるよう、日々努力を続けて参りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 略歴

- 1987 年 旭川医科大学医学部医学科 卒業、同大学附属病院研修医
- 1994 年 米国サウスカロライナ州立大学医学部  
ポストドクトラルフェロー
- 1997 年 旭川医科大学医学部助手
- 2001 年 米国ルイジアナ州立大学医学部 アシスタントプロフェッサー
- 2006 年 横浜市立大学大学院医学研究科循環制御  
医学 准教授
- 2012 年 愛知医科大学医学部生理学講座 教授